
私が兄貴に恋する理由。

mio

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私が兄貴に恋する理由。

【Nコード】

N9909Z

【作者名】

m i o

【あらすじ】

兄貴に恋する中学一年生櫻 舞が過ごす日常を描いた物語。

はじめに。

ひとつ、言わせていただきます。

私はブラコンなんかじゃない！

いや、もうこれを読んでくださってるみなさんが言いたいことはわかってますって。

「このタイトルでそれはねえだろ。」

といったところかと。

いえいえそうではなくて。

私が言いたいのは、ブラコンと恋は違うってことなんです。

私は本気で恋してますから。

お兄ちゃんが好きだから、ブラコン。ではなくて、お兄ちゃんが好きだけど、本気の恋。なんです。お兄ちゃんはもうひとりの異性。なんの問題もありません。

ちゃんと彼氏はいます。でも、それは親をごまかすための表向きだけの彼氏です。私の本命はお兄ちゃんなので。

彼氏だって、このことは知ってます。自分が表向きだけだということとは、承知の上なんです。

だから、キスとか、そういうことはしないうです。ファーストキスは、お兄ちゃんって決めてますので。

恐ろしい妹、けっこうです。

兄貴に恋するのか、いいじゃないですか。

お兄ちゃんに恋をするのって、そもそも悪いことなんですか？

恋をしてても、法にふれてなかったらセーフですよ。むしろ、法にひっかかるというのに納得がいけないくらいです。

私はいたって本気です。お兄ちゃんに対する気持ち、この意見。

誰にも認めてもらえないことくらい知ってます。

でも、気持ちに嘘ってつけないじゃないですか。

だから私は、この場をお借りさせていただき、記します。

私の恋物語、よろしければ、のぞいてみてください。

第一章

私の名前は櫻 舞。中学一年生です。

お兄ちゃんに、恋をしております。

決して、周りに恋できるような人がいなかったとか、そういうんじゃないんですよ。ただ、純粹に、お兄ちゃんを好きになっただけです。

かなりついですが、私たちの通う学校は、芸能科でもないのにオーディションがあつて、結構芸能人クラスのかっこいい人とかいるんですよ。

もっとも、私はぜんぜんかわいくもないですし、お兄ちゃんだってその中に混ざつてしまえば輝きを失つてしまいます。

さて、私は今、クラブ活動が終わり、下校途中なわけですが。

非常に憂鬱です。

私は女子なら入る人数が異常なくらい少ない柔道部に所属しています。その男の子に告白されました。

部内恋愛は禁止、バレたら顧問になにをされるかわかりません。

それなのに・・・しかも、こんな私を・・・

「舞、どうした？」

話しかけてきたのは、幼馴染で彼氏のふりをしてもらっている陸斗。「別に、なにもないです」

うつむいて赤面しているのをかくした私に、陸斗は笑ってから真剣な表情に変わりました。

「お前が俺に敬語になるときは、なんでもないときじゃない。」

「そんなことはありません。私は基本敬語です。」

「話したくないならいい。大体見当はついてるからな。どうせまたコクられでもしたんだろ。」

陸斗はどこか、すねていました。

「よく・・・わかりましたね。」

「やっぱりか、ほんとお前はモテるよな。」

「わかんないんです理由が。どうして私なんかを・・・」

世の中の人は、これをリア充などというのでしょうか。そうなのでしょうか。でも、私にとっては、まったく充実なんかしてませんし、むしろ疲れるくらいなんです。

自分を好きになつてくれる人がいても、私の本命はお兄ちゃんで、それは決定事項で、そのたびに胸が痛いのです。想いにこたえることなんて、できないんですから。

「お前さ、嫌なの？好きって言われんの。」

「嫌じゃないです。でも、戸惑うじゃないですか。しかも今回は部員なんですよ。全13人の男子部員のうち、もうすでに半分以上に・・・その・・・好き・・・だと言われました。戸惑うんです、やっぱり。いつまでも、慣れるものじゃないんだと思います。」

悲しげに言う私に、陸斗はため息をつきました。

それきり、黙りました。

でも、私の側からは、離れませんでした。

普通の人なら、私がもし普通なら、陸斗に恋をしていたのでしょうか。

でも、私はやはり、お兄ちゃんに恋をしているので。

お兄ちゃんが、大好きなので。

彼氏のふりをしてくれている陸斗は。

私のゆういつ信頼できる人。

支えてくれる人。

ありがとうございます。

心の中で、照れ笑いを浮かべながら、毎日毎日、つぶやきます。

第一章（後書き）

読んでくださった方、ありがとうございました。

第二章

私の名前は櫻 舞。

お兄ちゃんに恋をしております。

今日は、陸斗とお出かけです。

もちろん、親にはデートだと言っております。

格好も、それなりに・・・なってるといいんですけど。

初めてドクロマークの服を着させていただきました。スカートはひらひらのやつです。

私は普段、こんな服は着ません。もつとほわほわした、お嬢様っぽいのを着ています。あ、でもこれは秘密ですよ？柔道部なので、ちよつと自重です。

「いつてきまあーす」

今回もいつも通り、映画でもみにいつて時間つぶすかと思われまうね。

ごく普通に、友達と映画をみにでかける感覚です。

陸斗は、いつもと同じ格好で、いつもと同じ髪型で、まったくいつもと同じでした。

「行くよ、舞」

「はい」

大して楽しくもないけど、私はこの瞬間が好きです。いつもの、何も変わらない会話。ずっとこうであれば、平和であればいいのにと思っんです。

映画も終わり、私は陸斗と手をつないで歩いていました。

別に恥ずかしくはないんですけど、お兄ちゃんに見られたら・・・

とか考えると複雑です。

「舞。」

「どうしたの？」

「うち、来る？」

「あ、行く行くー」

これが、私の平和を壊すことになるだなんて思ってた。

「好きなんだ。」

「えっ・・・？」

第二章（後書き）

短くてごめんなさい（――；）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9909z/>

私が兄貴に恋する理由。

2011年12月31日15時59分発行